

第7週の発生動向 (2006/2/13~2006/2/19)

- インフルエンザは、全体的には減少傾向にあります。むつ保健所管内で引き続き**警報**が、青森保健所、五所川原保健所、上十三保健所管内で引き続き**注意報**が出されています。
- 水痘は、むつ保健所管内で**注意報**が出されました。
- 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
- 流行性耳下腺炎は、五所川原保健所管内で引き続き**警報**が出されています。

第7週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	231	16.50	101	6.73	94	6.71	109	15.57	119	13.22	98	16.33	752	11.57	-340
(60) 咽頭結膜熱											3	0.75	3	0.07	0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.78	12	1.33	7	0.78			6	1.00			32	0.76	0
(62) 感染性胃腸炎	68	7.56	43	4.78	15	1.67	7	1.40	16	2.67	18	4.50	167	3.98	-14
(63) 水痘	22	2.44	22	2.44	34	3.78	6	1.20	1	0.17	17	4.25	102	2.43	44
(64) 手足口病					1	0.11	1	0.20			1	0.25	3	0.07	2
(65) 伝染性紅斑	5	0.56	43	4.78			5	1.00					53	1.26	16
(66) 突発性発しん	2	0.22	2	0.22	5	0.56	1	0.20			3	0.75	13	0.31	0
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															-2
(69) ヘルパンギーナ									1	0.17			1	0.02	0
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	7	0.78	6	0.67	7	0.78	20	4.00	4	0.67	11	2.75	55	1.31	9
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎					1	0.50			1	0.50			2	0.18	-3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 1人 五所川原保健所管内: 1名
上十三保健所管内: 2人 (18年計 57人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (18年計 29人)

感染症の窓

水痘

図1 平成18年定点当たり患者数年次比較図

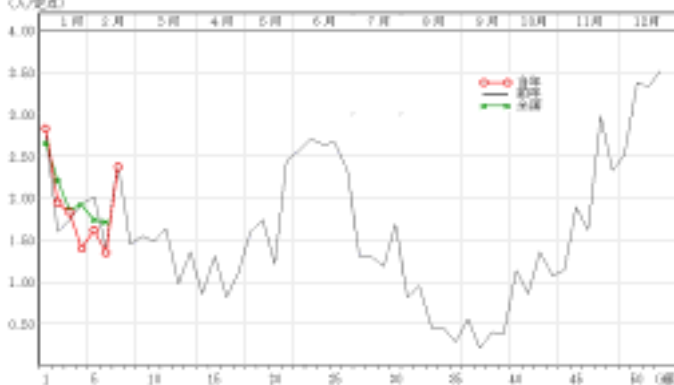
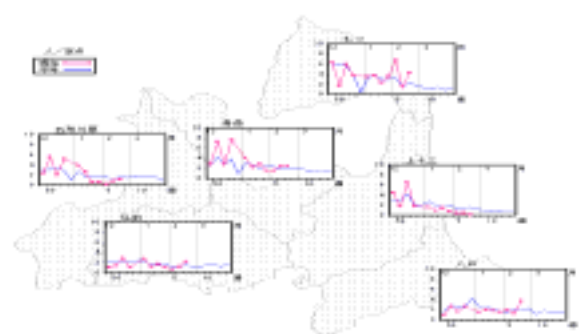


図2 保健所管内別患者報告数



青森県における定点当たり患者数は、第6週までは減少傾向に推移していましたが、第7週に再び増加しました(図1)。保健所別では上十三保健所管内以外のすべての保健所管内で増加傾向にあり(図2)、今後の動向に注意が必要です。

水痘は、水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こる急性の伝染性疾患です。**疫学**: 自然宿主はヒトのみで感染力は強く家庭内接触での発症率は90%です。季節的には毎年12月~7月に多く、罹患年齢はほとんどが9歳以下です。**臨床症状**: 軽い発熱、倦怠感、発疹で発症し、発疹は2~3日のうちに水疱、膿疱、痂皮の順に進行し、回復後は終生免疫が得られます。**治療・予防**: 対症療法と治療には抗ウイルス薬が用いられます。予防はヒト-ヒトの感染によることから発症者との接触をさけることが重要ですが、ワクチン接種が有効です。

